

経営資本 -70年以上の歴史を積み重ねて培ってきた経営資本-

経営資本は持続的な企業価値向上に向けた大切な源泉になります。
 豊田合成は経営理念に基づき価値創造の循環を繰り返しながら経営資本を培い、
 先読みした事業機会やリスクへ適切なタイミングで資本を投入していきます。

人的資本

企業の進化・成長を支える多彩な個性を持ったモノづくり集団

豊田合成は世界16カ国・地域、グループ61社で事業展開をしており、国籍・性別・年齢・ライフスタイルなどの異なる多様な才能や価値観を持つ人材が最大限に能力を発揮し、総力結集で進化・成長を続けていきます。一人ひとりが自己成長を実感しながら十分に能力が発揮できる、健康的で働きやすい職場環境づくりを推進しています。

- 海外従業員比率:76.3%
- 女性管理職者数[単体]:30名
- ローカル幹部比率:31.0%
- 中途採用者管理職比率[単体]:30.9%

多様な人材の活躍 **P58**

社会・関係資本

ステークホルダーとの丁寧な対話による強固な関係を構築

100年に一度の大変革期と国際社会が不安定な中で、経営ビジョンを実現していくには様々なステークホルダーとの円滑な連携が重要です。豊田合成はステークホルダーと丁寧に対話を重ね、ステークホルダーと共に社会への価値提供を通じて、強固な相互信頼関係を構築・維持し、厳しい事業環境の中でも着実に進化し続けます。

- 機関投資家との対話 (決算説明会、スモールミーティング、ESG説明会、施設見学会、事業説明会など)
- 大学共同研究 (名古屋大学、大阪大学、東京大学など)

社会への取り組み **P54**

製造資本

グローバルネットワークとゴム・樹脂分野の知見を活かして世界中のお客様へ「安心」「安全」「快適」をタイムリーに提供

世界中のお客様のニーズにタイムリーにお応えできるよう、各地域に密着した営業・技術体制とグローバルで最適な生産・納入体制を整えています。加えて、70年以上培ってきた自社の強みである「ゴム・樹脂分野の知見」を活かし、工法や生産設備を革新的に進化させ、モノづくり力を高めています。今後はICP(インターナル・カーボンプライシング)を導入し、環境と経済活動のバランスを踏まえた投資判断を推進します。

- 設備投資:497億円

競争優位性 **P20**

自然資本

培ってきた環境技術と知見を活かした「気候変動」と「資源循環」への取り組み

豊田合成は、1993年に「第1次環境取り組みプラン」で本格的に環境活動を開始し、約30年精力的に取り組んできました。自然資本はマテリアリティ(重要課題)やアウトカムの根源であり、これまで培ってきた「環境保全の知識・技術」と「ゴム・樹脂分野の知見」をより進化させることで効率的な資源投入と環境負荷の低減を実現し、環境と経済価値の両立を推進します。

- 総物資投入量:40,305t
- 水資源投入量:112万m³
- 再生可能エネルギー投入量:3.4万GJ
- ISO14001 生産事業所取得率(環境マネジメントシステム):100%

マテリアリティ **P22** 環境への取り組み **P42**

知的資本

研究開発力を磨いて競争優位性「新規事業開発の経験」をさらに高める

クルマの様変わりに伴う大変革期の中でお客様や社会のニーズをできるだけ早く捉え、5年、10年先の技術力を持ち合わせていくことが重要であり、研究開発力は企業成長の源泉です。豊田合成では直近3年間で約1,000億円の研究開発費を投入し、新規・既存事業の研究開発を推進しています。今後はIPランドスケープなどを活用し新規事業開発の意思決定の正確性とスピードアップを図り、競争優位性をさらに高めていきます。

- 開発・技術員数[単体]:2,327名
- 保有特許数:4,829件

競争優位性 **P20** 財務・非財務ハイライト **P86**

財務資本

持続的成長と企業価値向上を支える健全な財務マネジメント

持続的成長のためには、設備や研究開発、人材への継続的な投資が必要となります。豊田合成は健全な財務マネジメントにより財務基盤の安定性を維持し、必要なタイミングで財務資本を効果的に使用することで継続的な成長を実現します。今後はROICなどの新しい管理指標などを導入し、投資効率を重視した意思決定を進め、グローバルで機動的に資金を融通する仕組みの構築により資金の効率化を図るなど、資本の効率性も重視した、多面的な財務マネジメントにより企業価値向上を目指します。

- 株主資本:4,288億円
- 有利子負債:1,736億円
- 親会社所有者帰属持分比率:49.9%

財務担当役員メッセージ **P40** 財務・非財務ハイライト **P86**